

第4章 マッハ流力学の行方

図35 三つの配置

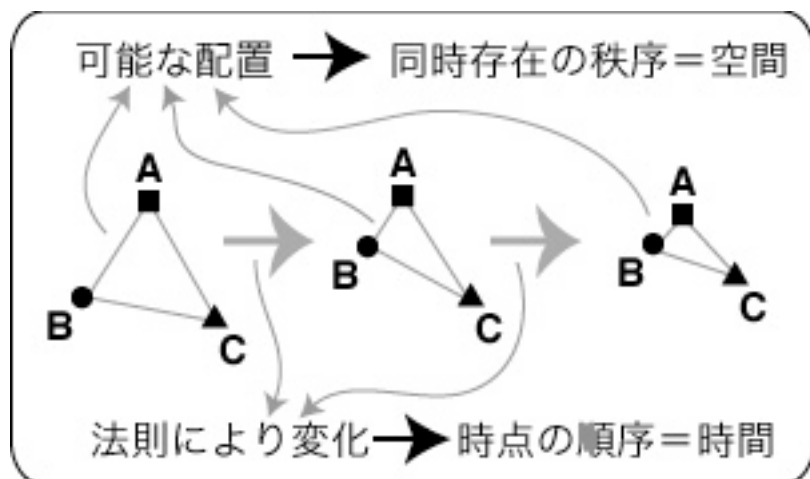


図36 慣性運動の「時計」

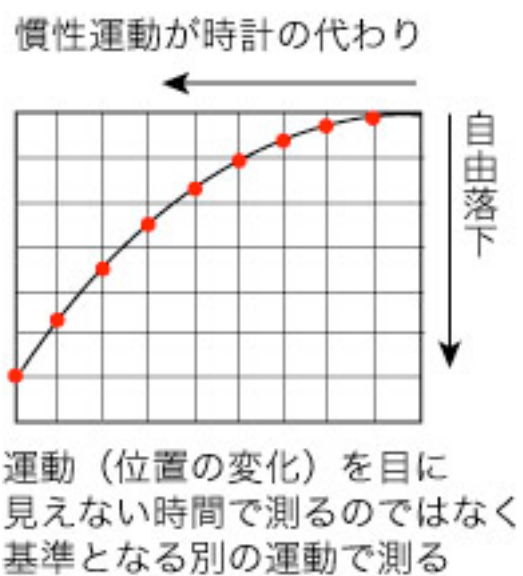


図37 二つのスナップショットの重ね方

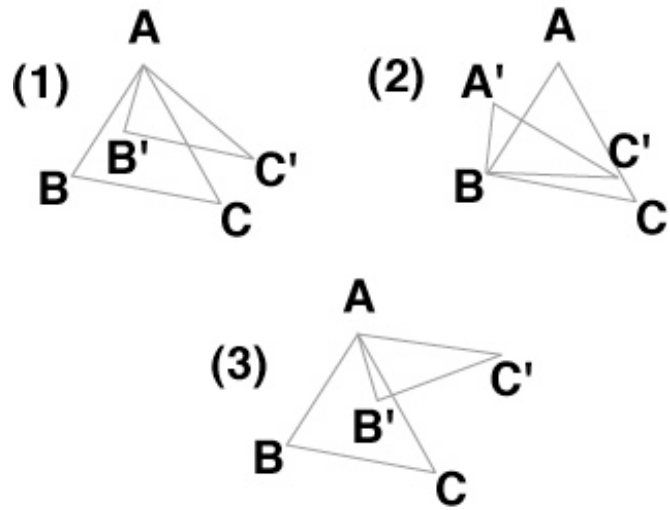
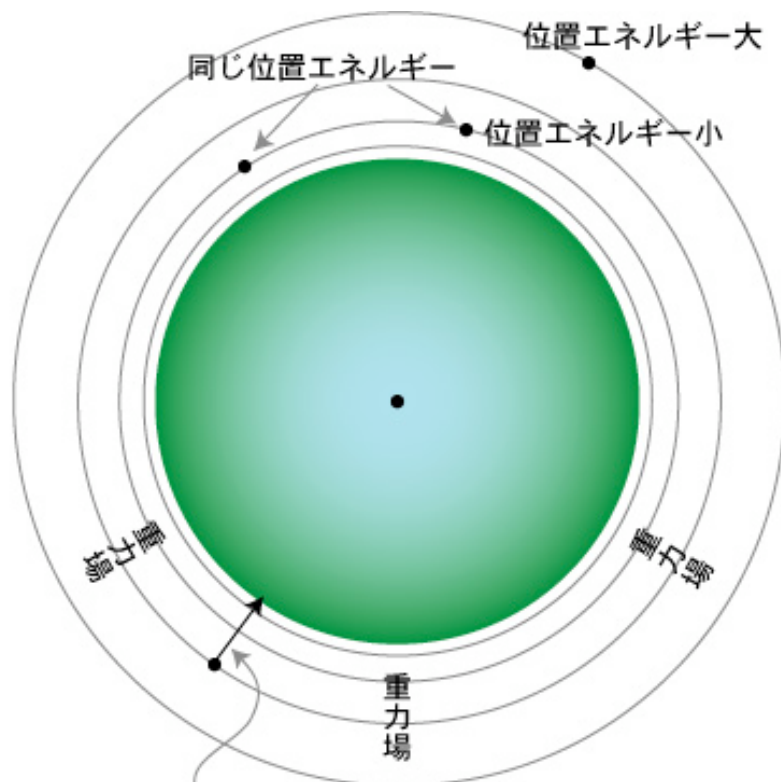


図38 位置エネルギー



ある高さから地表に落下したときになされる仕事の量、エネルギーは、二点の位置エネルギーの差によって決まる。

図39 関係説での運動エネルギー

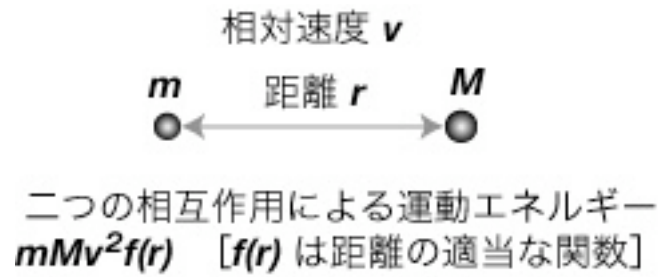


図40 水星の近日点移動

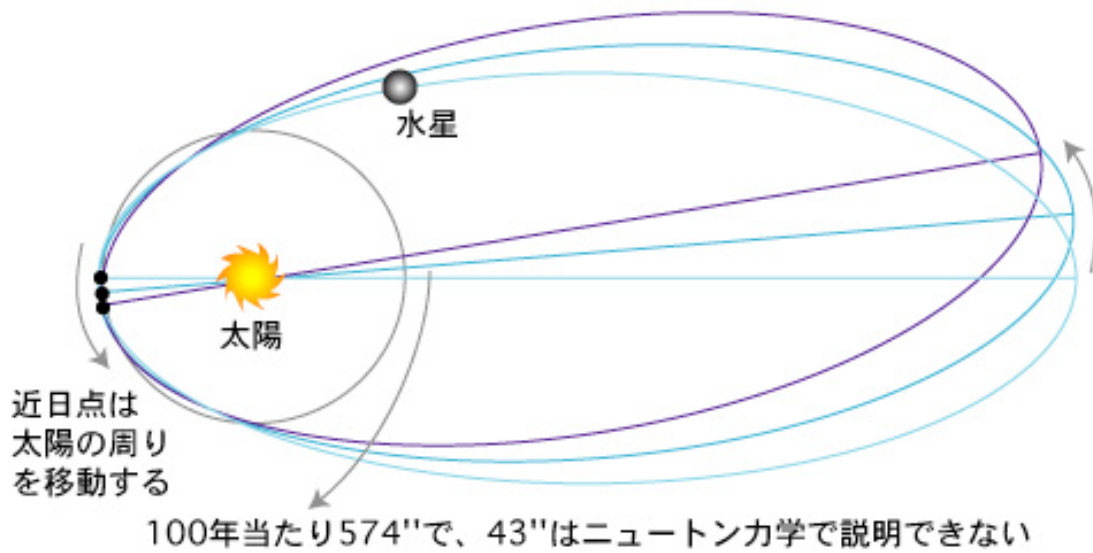


図4 1 シュレーディンガーの球殻モデル

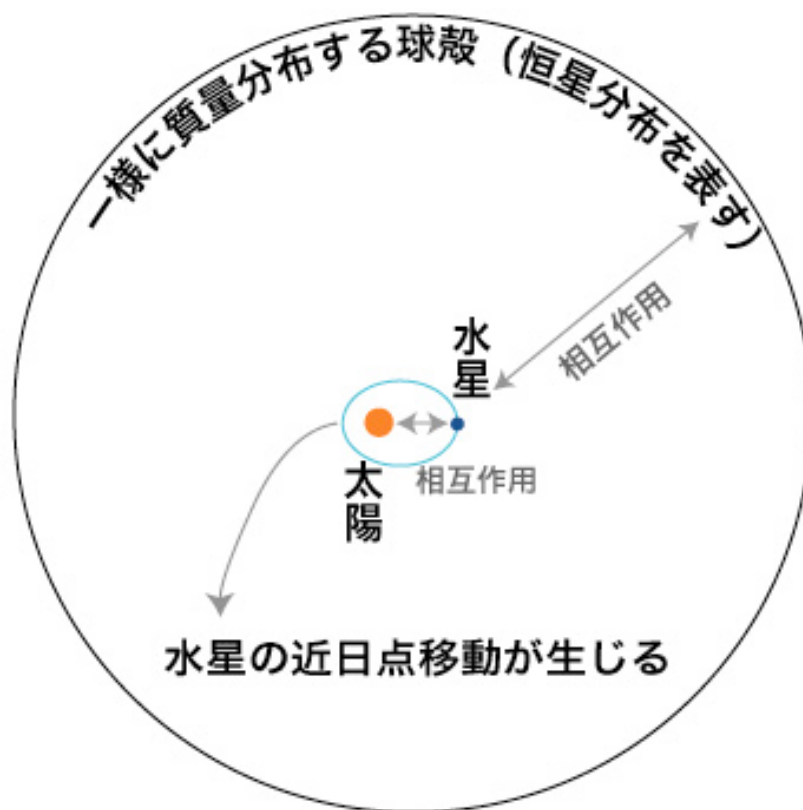


図4 2 慣性の異方性

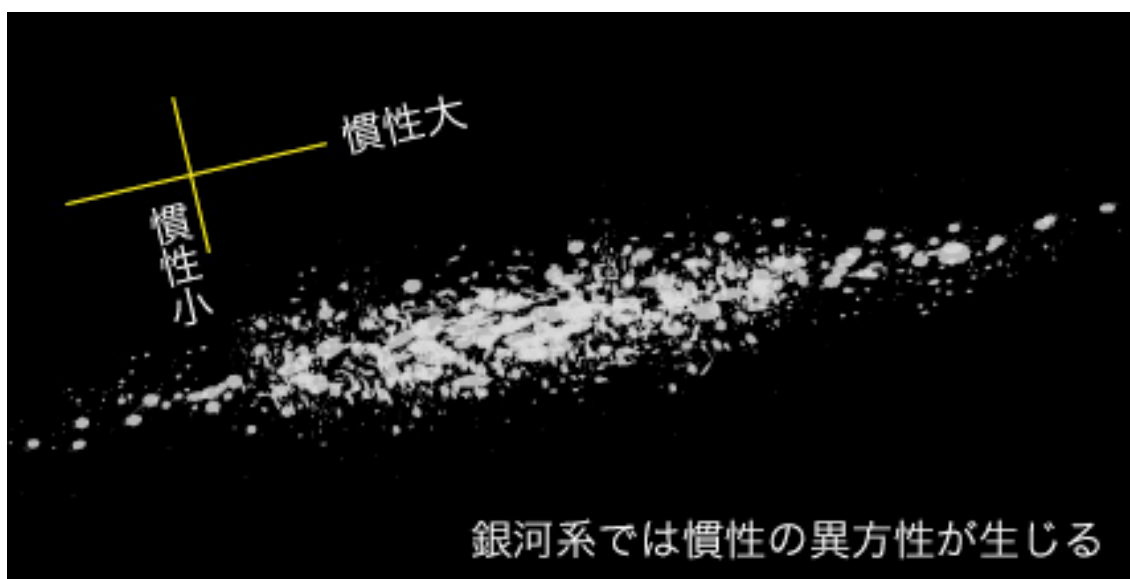


図 4 3 三次元の相対的配置空間

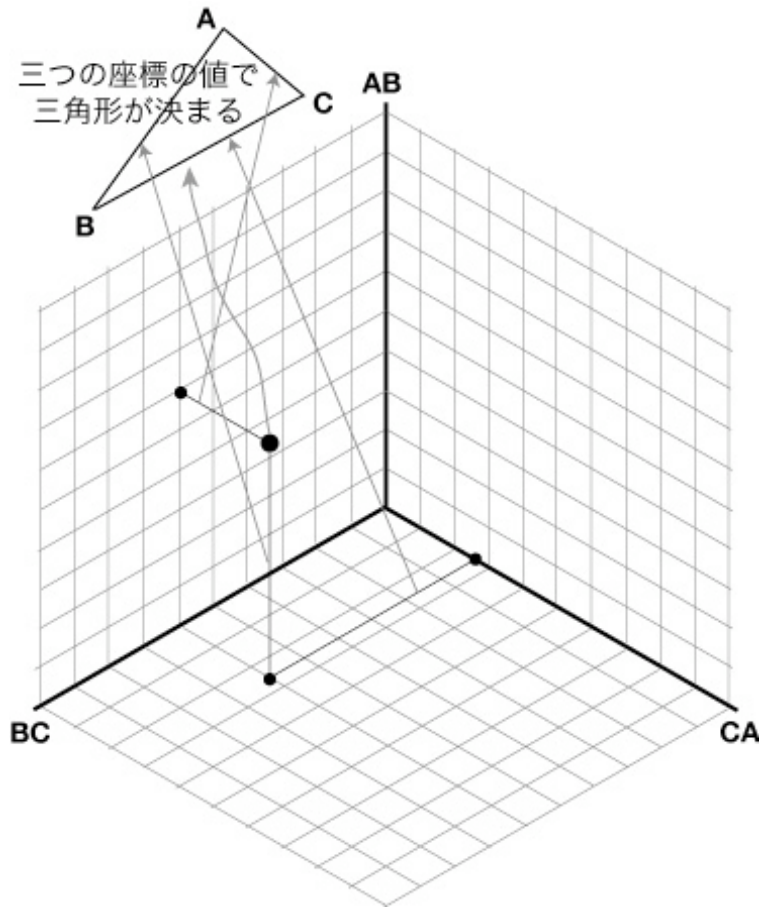


図 4 4 可能な三角形の領域

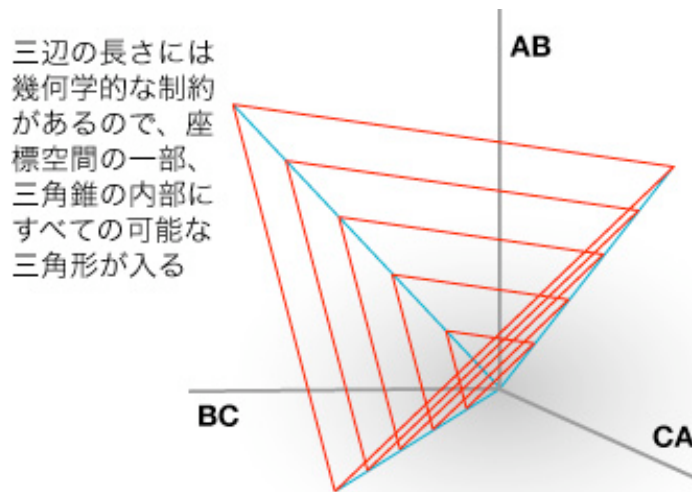


図45 惑星運動

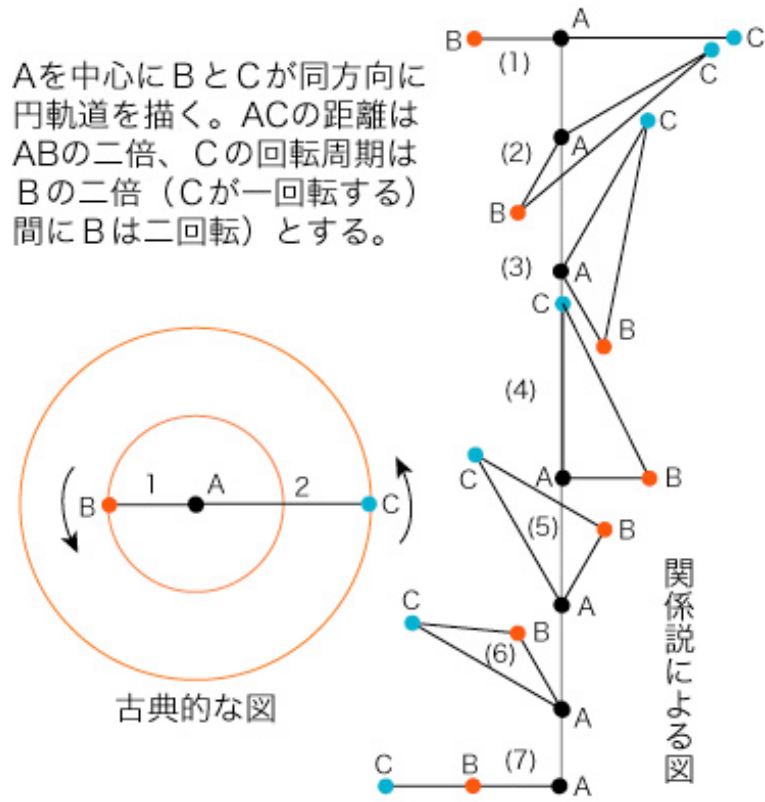


図46 惑星系全体の運動

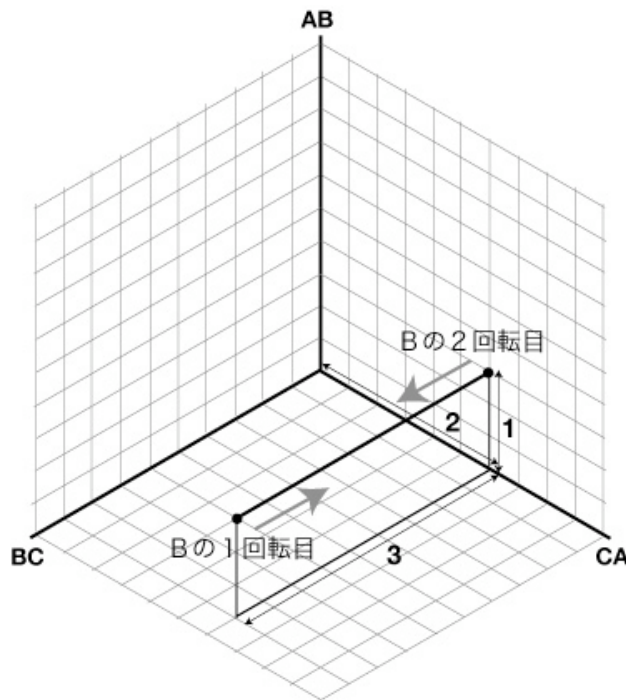


図47 形空間における軌跡

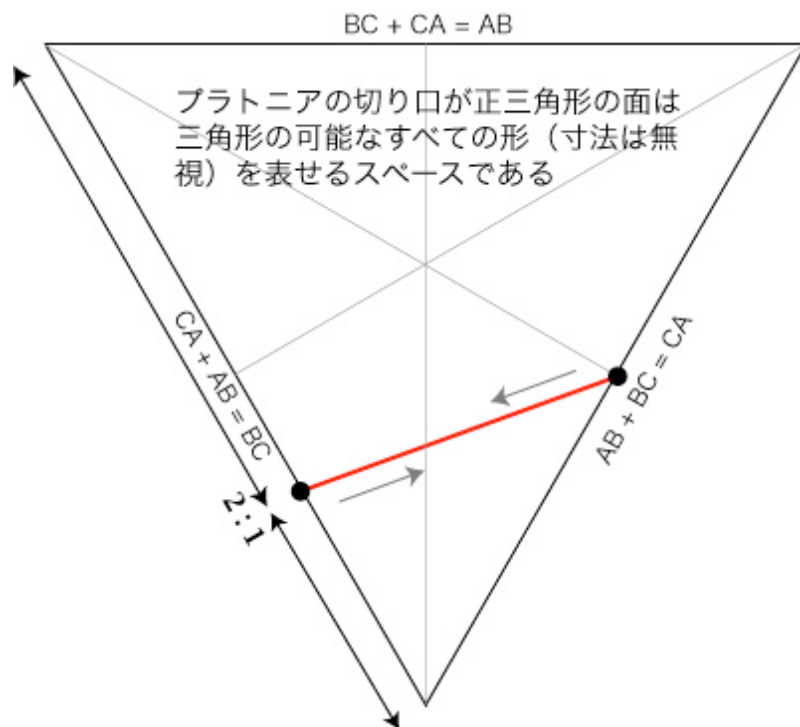


図48 関係説力学の初期条件

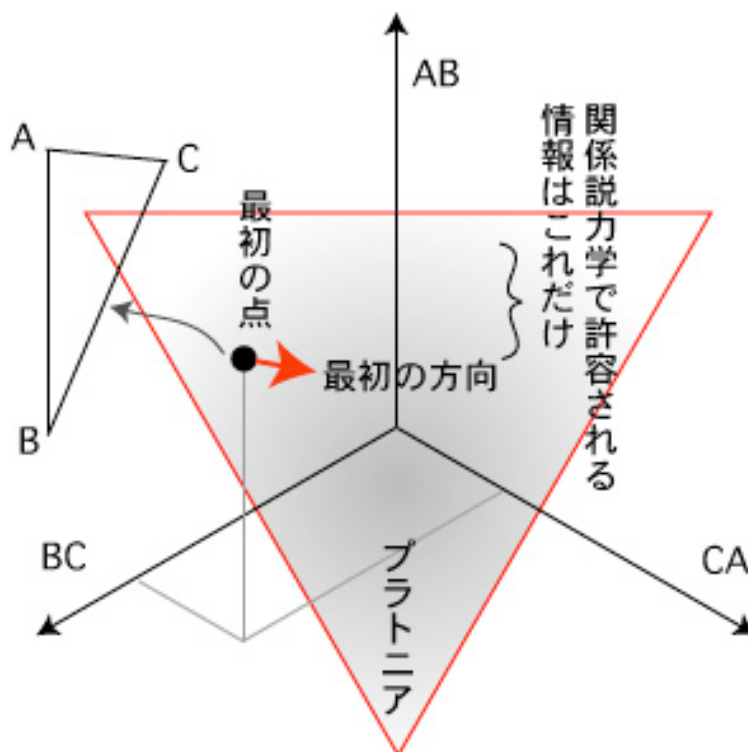
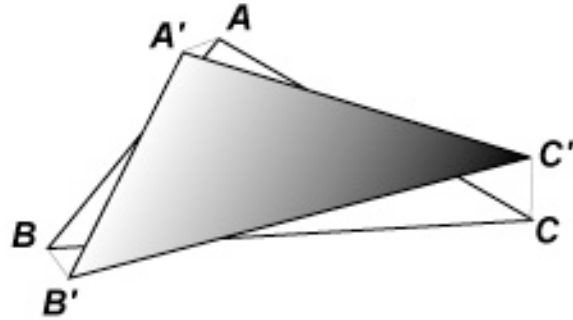


図49 二つの状態の暫定的間隔

三角形ABCを固定し、三角形A'B'C'を好きなように動かしてみる



それぞれの頂点にある質点が、質量 a 、 b 、 c をもつとすれば、

$$\text{暫定間隔 } d = \sqrt{a(AA')^2 + b(BB')^2 + c(CC')^2}$$

図50 関係説による測地線

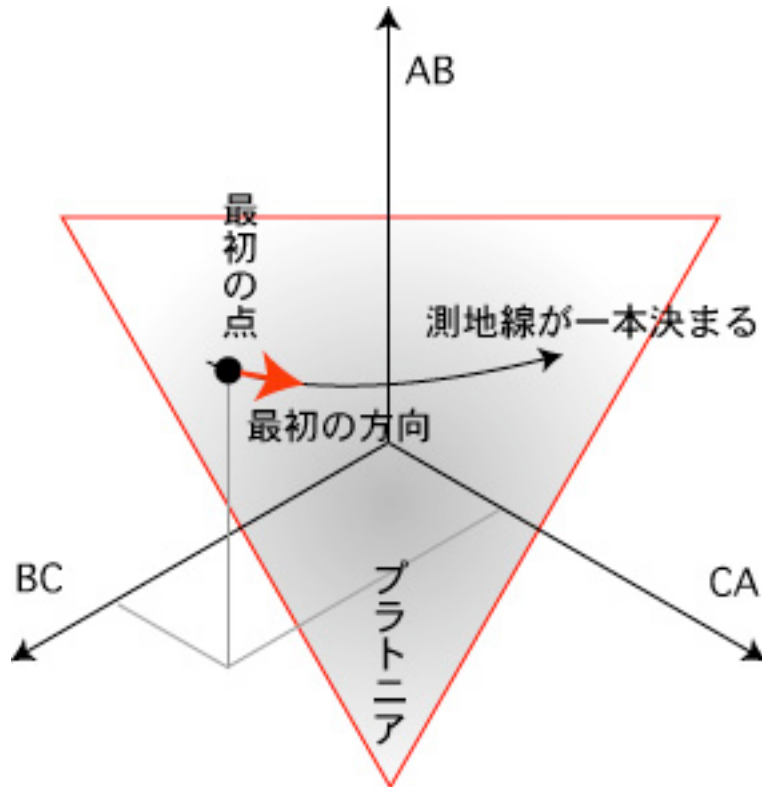


図5 1 ニュートン力学による測地線

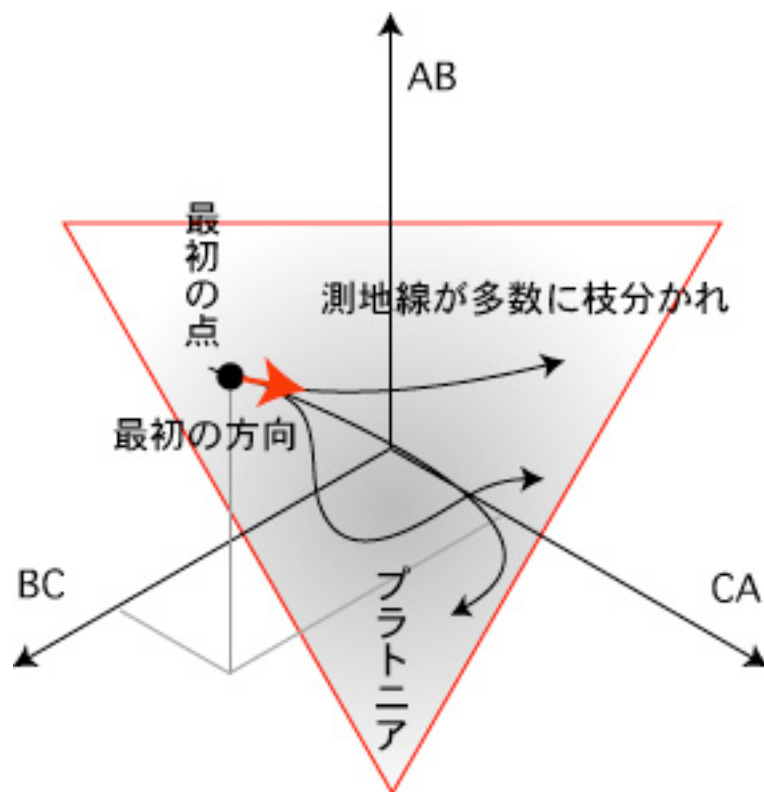


図5 2 部分系の運動

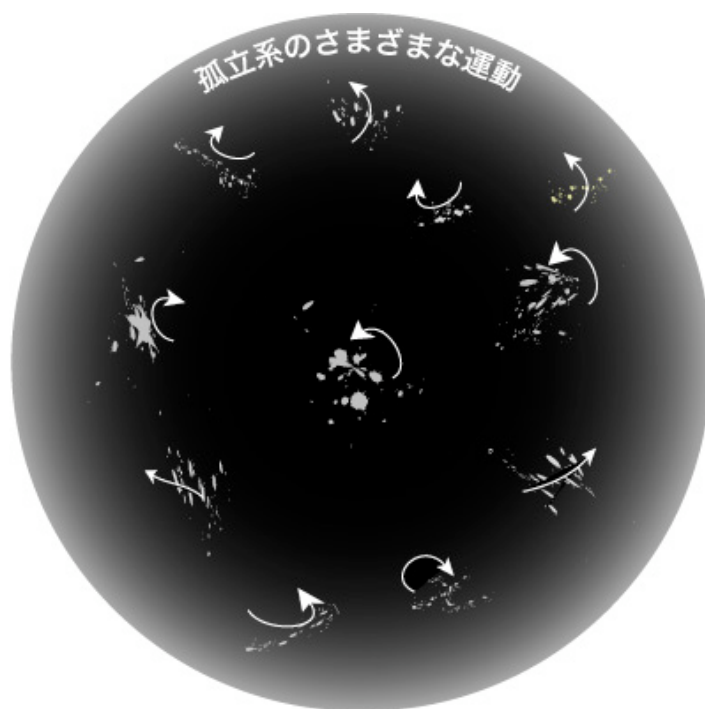
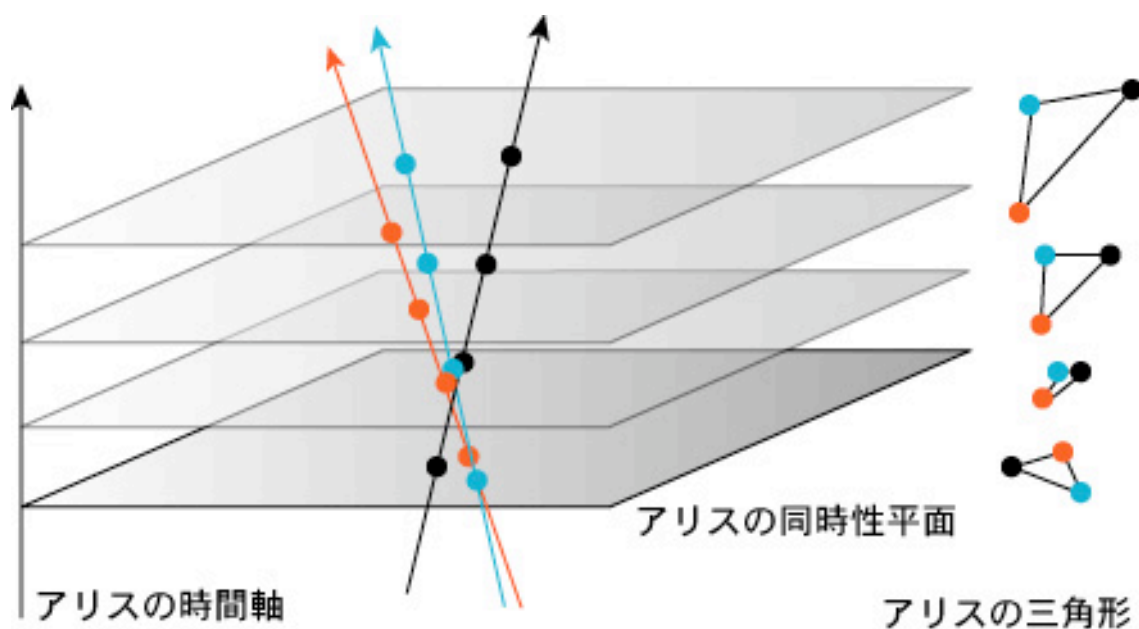


図5.3 特殊相対性でもプラトニアは構成できる



相対論的プラトニアでは、観測者の運動状態により、異なる三角形が見えるが、それらは同じ運動法則にしたがう。

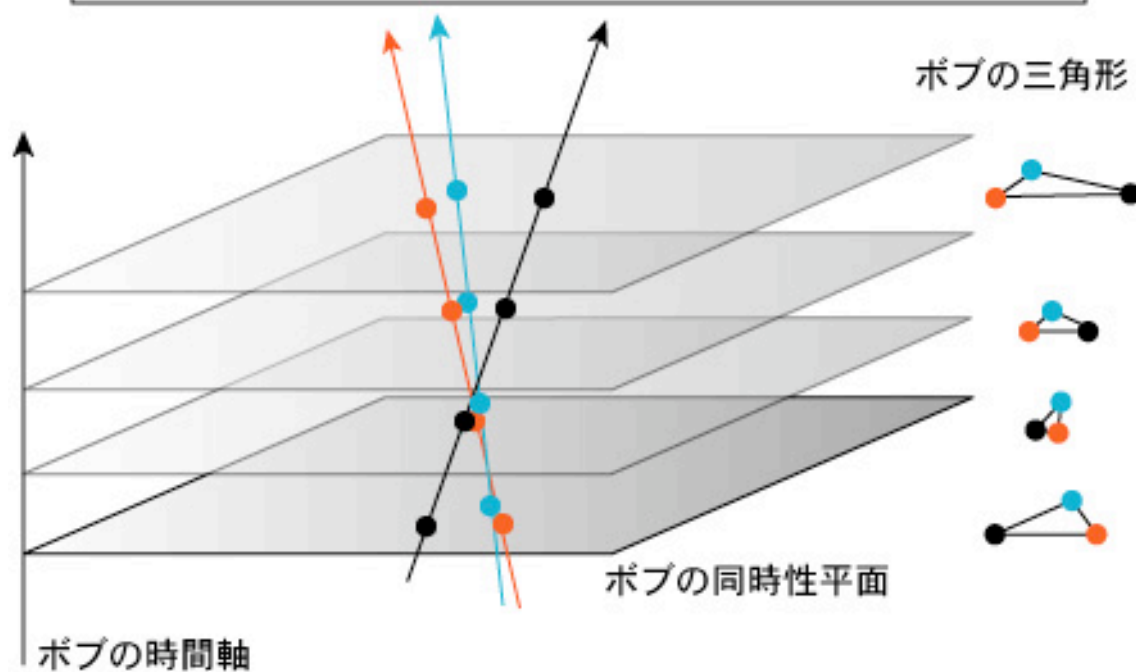


図5 4 四面体による曲面の近似

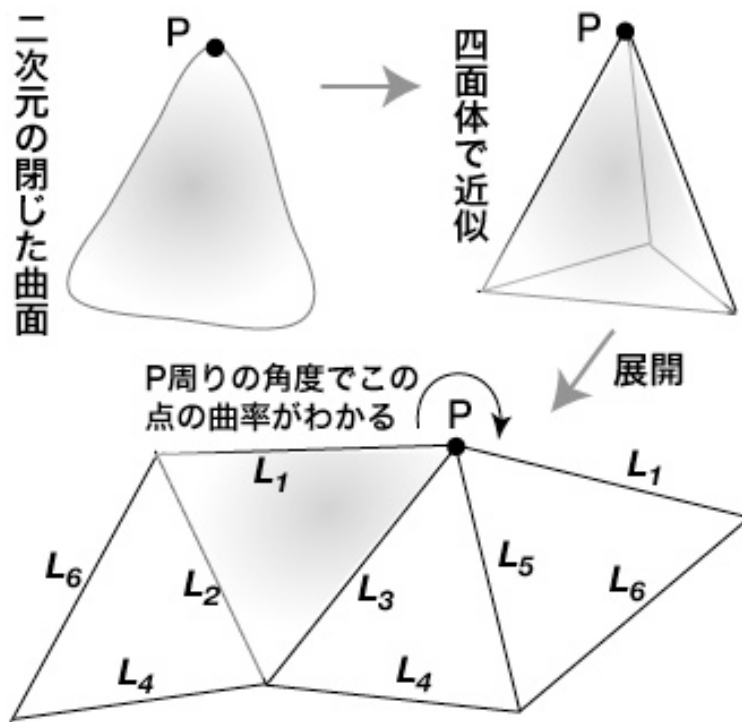


図5 5 六次元のプラトニア

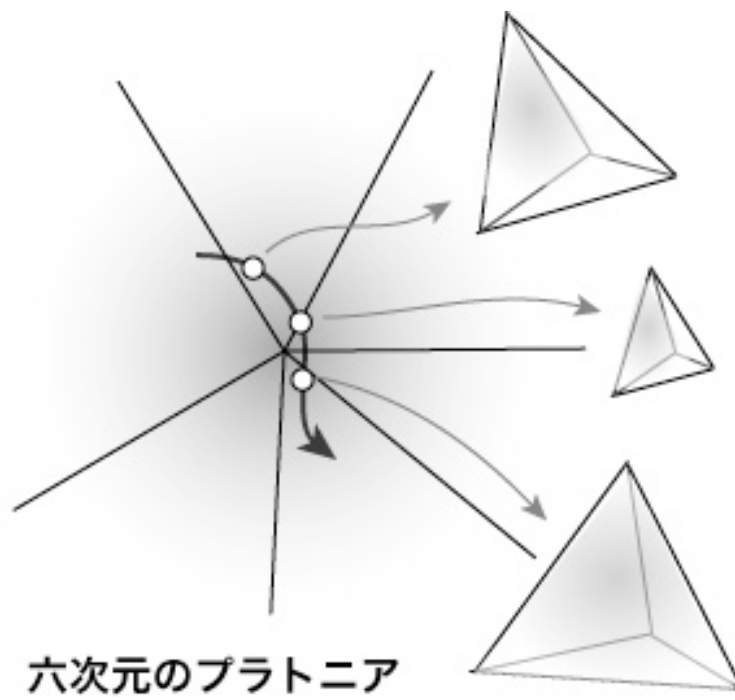


図56 曲がった同時性

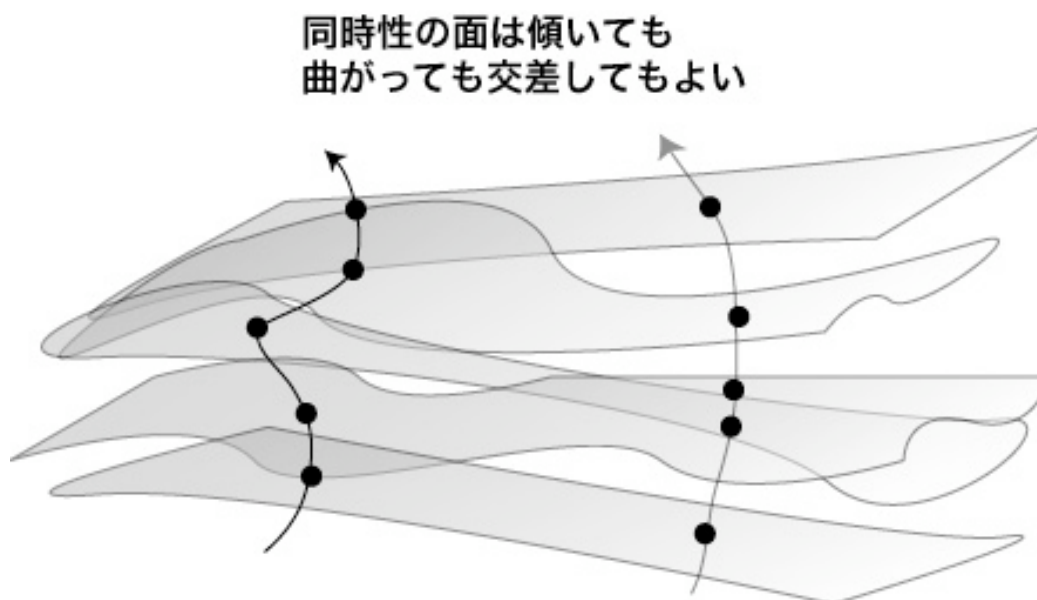


図57 一般相対性でのベストマッチ

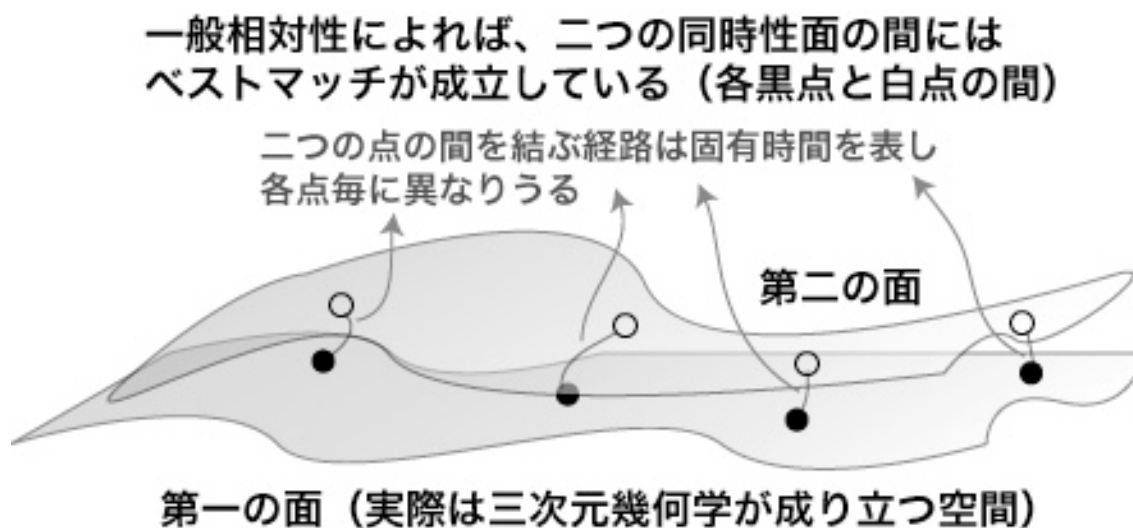


図5 8 同時性面が入り組んでもベストマッチが成り立つ

